

今月の経済動向 (2019年7月)

● 月例経済報告 (7/23)

| | | |
|--------------------|---|---------------------------------------|
| <p>基調判断</p> | <p>(7月) 景気は、輸出を中心に弱さが続いているものの、緩やかに回復している。当面、一部に弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続かなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響に一層注意するとともに、中国経済の先行き、海外経済の動向と政策に関する不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。</p> <p>(6月) 景気は、輸出や生産の弱さが続いているものの、緩やかに回復している。当面、一部に弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続かなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響に一層注意するとともに、中国経済の先行き、海外経済の動向と政策に関する不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。</p> | |
| <p>個人消費</p> | <p>(7月) 持ち直している。</p> <p>(6月) 持ち直している。</p> | <p>(2011年=100) 消費総合指数と実質総雇用者所得</p> |
| <p>設備投資</p> | <p>(7月) このところ機械投資に弱さもみられるが、緩やかな増加傾向にある。</p> <p>(6月) このところ機械投資に弱さもみられるが、緩やかな増加傾向にある。</p> | <p>(2000年=100) 製造業・非製造業の設備投資 (実質)</p> |
| <p>住宅建設</p> | <p>(7月) おおむね横ばいとなっている。</p> <p>(6月) おおむね横ばいとなっている。</p> | <p>住宅着工戸数 (季節調整値)</p> |
| <p>雇用情勢</p> | <p>(7月) 着実に改善している。</p> <p>(6月) 着実に改善している。</p> | <p>雇用者数、就業者数の推移</p> |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--|----|----|--------|----|-----|-------|------|----|-------|------|-----|-------|----|----|-------|----|-----|-------|-----|----|-------|-----|-----|-------|
| <p>生産</p> | <p>(7月) このところ横ばいとなっているものの、一部に弱さが続いている。</p> | <p>鉱工業生産・出荷・在庫・在庫率の推移 (2015年=100)</p> <p>このグラフは、2008年1月から2019年7月までの鉱工業生産、出荷、在庫、および在庫率の推移を示しています。左側の縦軸は生産と出荷（2015年=100）を示し、右側の縦軸は在庫と在庫率（目盛右）を示しています。在庫率は右側の縦軸で150まで表示されています。在庫率は2008年に約150から急激に低下し、その後概ね100前後で推移しています。生産と出荷は2008年に約115から急激に低下し、その後概ね100前後で推移しています。出荷は生産よりも若干遅れて回復しています。在庫は2008年に約115から急激に低下し、その後概ね100前後で推移しています。在庫率は2008年に約150から急激に低下し、その後概ね100前後で推移しています。在庫率は2008年に約150から急激に低下し、その後概ね100前後で推移しています。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>輸出</p> | <p>(7月) 弱含んでいる。</p> | <p>地域別輸出入数量指数 (2015年=100) ①輸出</p> <p>このグラフは、2008年1月から2019年6月までの地域別輸出入数量指数を示しています。縦軸は2015年=100で、横軸は年と月（4, 7, 10）を示しています。全体、EU、アジア、アメリカの4つの地域が示されています。全体は2008年に約140から急激に低下し、その後概ね100前後で推移しています。EUは2008年に約140から急激に低下し、その後概ね100前後で推移しています。アジアは2008年に約140から急激に低下し、その後概ね100前後で推移しています。アメリカは2008年に約140から急激に低下し、その後概ね100前後で推移しています。</p> <table border="1"> <tr> <td>EU</td> <td>6月</td> <td>+12.1%</td> </tr> <tr> <td>EU</td> <td>3MA</td> <td>▲0.5%</td> </tr> <tr> <td>アメリカ</td> <td>6月</td> <td>+4.2%</td> </tr> <tr> <td>アメリカ</td> <td>3MA</td> <td>+0.3%</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>6月</td> <td>+5.8%</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>3MA</td> <td>+0.1%</td> </tr> <tr> <td>アジア</td> <td>6月</td> <td>+9.2%</td> </tr> <tr> <td>アジア</td> <td>3MA</td> <td>+0.4%</td> </tr> </table> | EU | 6月 | +12.1% | EU | 3MA | ▲0.5% | アメリカ | 6月 | +4.2% | アメリカ | 3MA | +0.3% | 全体 | 6月 | +5.8% | 全体 | 3MA | +0.1% | アジア | 6月 | +9.2% | アジア | 3MA | +0.4% |
| EU | 6月 | +12.1% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| EU | 3MA | ▲0.5% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アメリカ | 6月 | +4.2% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アメリカ | 3MA | +0.3% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 全体 | 6月 | +5.8% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 全体 | 3MA | +0.1% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アジア | 6月 | +9.2% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アジア | 3MA | +0.4% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>国内企業物価</p> | <p>(7月) このところ<u>緩やかに下落</u>している。</p> | <p>企業物価の推移 (2015年=100)</p> <p>このグラフは、2008年1月から2019年4月までの企業物価の推移を示しています。縦軸は2015年=100で、横軸は年と月（4, 7, 10）を示しています。輸入物価（目盛右）、輸出物価（目盛右）、国内企業物価の3つが示されています。輸入物価は右側の縦軸で130まで表示されています。輸出物価は右側の縦軸で130まで表示されています。国内企業物価は2008年に約105から急激に低下し、その後概ね95前後で推移しています。輸入物価は2008年に約125から急激に低下し、その後概ね100前後で推移しています。輸出物価は2008年に約125から急激に低下し、その後概ね100前後で推移しています。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>消費者物価</p> | <p>(7月) このところ<u>緩やかに上昇</u>している。</p> | <p>消費者物価の推移 (2015年=100)</p> <p>このグラフは、2010年1月から2019年4月までの消費者物価の推移を示しています。縦軸は2015年=100で、横軸は年と月（4, 7, 10）を示しています。生鮮食品を除く総合、生鮮食品及びエネルギーを除く総合、総合の3つが示されています。生鮮食品を除く総合は2010年に約98から急激に低下し、その後概ね95前後で推移しています。生鮮食品及びエネルギーを除く総合は2010年に約98から急激に低下し、その後概ね95前後で推移しています。総合は2010年に約98から急激に低下し、その後概ね95前後で推移しています。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>海外経済</p> | <p>(7月) 世界の景気は、アジア及びヨーロッパの中では弱さがみられるものの、全体としては<u>緩やかに回復</u>している。</p> | <p>(7月) 世界の景気は、アジア及びヨーロッパの中では弱さがみられるものの、全体としては<u>緩やかに回復</u>している。先行きについては、全体としては<u>緩やかな回復</u>が続くことが期待される。ただし、通商問題の動向、中国経済の先行き、政策に関する不確実性、金融資本市場の変動等によるリスクに留意する必要がある。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>(6月) このところ弱含んでいる。</p> | <p>(6月) 弱含んでいる。</p> | <p>(6月) 世界の景気は、アジア及びヨーロッパの中では弱さがみられるものの、全体としては<u>緩やかに回復</u>している。先行きについては、全体としては<u>緩やかな回復</u>が続くことが期待される。ただし、通商問題の動向、中国経済の先行き、政策に関する不確実性、金融資本市場の変動等によるリスクに留意する必要がある。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

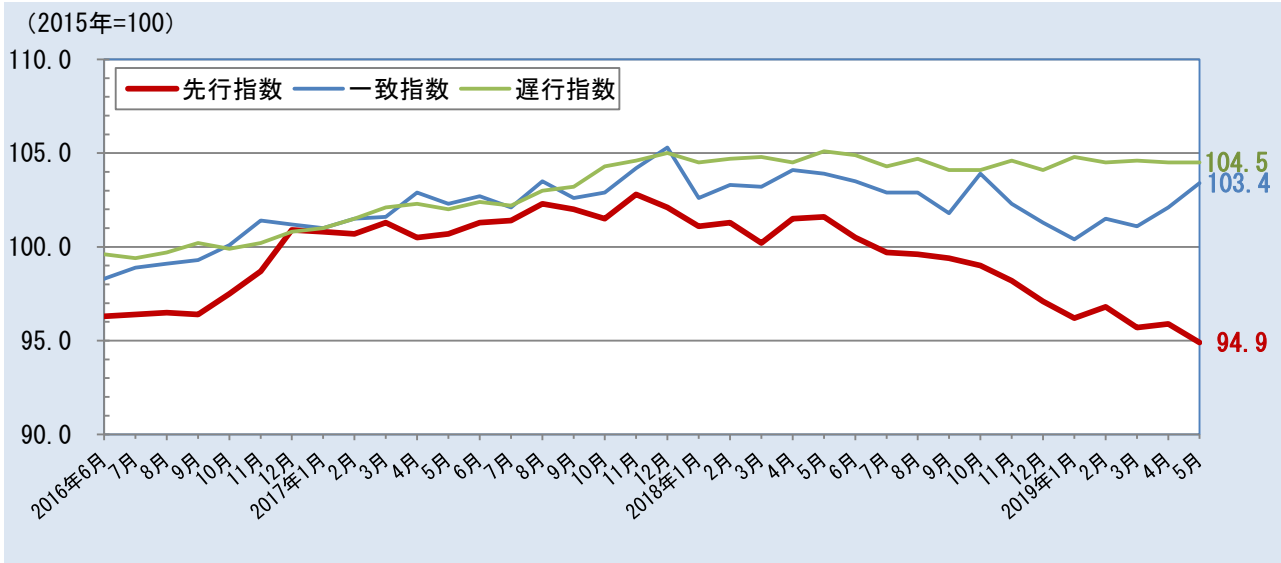
[月例経済報告：内閣府](#)

● 景気動向指数（2019年5月・改訂値）

2019年5月のCI一致指数（改訂値）は前月より1.3ポイント高い103.4ポイントとなり、2か月連続の上昇となった。3か月後方移動平均は前月より0.63ポイント高い102.2ポイントとなり、2か月連続の上昇となった。7か月後方移動平均は前月より0.07ポイント低い101.7ポイントとなり、2か月ぶりの下降となった。

CI先行指数は前月より1.0ポイント低い94.9ポイント、遅行指数は前月と変わらず104.5ポイントとなった。

景気の基調判断（CI一致指数）は、「下げ止まりを示している」に上方修正した。



[景気動向指数：内閣府](#)